

「さ、え、母様、そんなにやさしくして下さるな、僕は  
は慥と植木鉢を押したのです。」

「ひう、なせ」と云ひながら此時システイーの父親は  
すつと子供の側に寄つて來ました。

婆は何事が初るかと思つてびく／＼心配しながら男兒  
の方を見つめて居ます。

「じやうだんに、どんなに父様がびつくりなさるか  
と思つてじやうだんにしたのです。

本當ですよ、正直の事ですよ、さあ父様、僕を打つ  
なり、どうなりして頂戴、さあ……………」

どシステイーは涙ぐみながら父様の側に寄て來ました  
父親は持つて居た本をあつちに投げ出して、少しこ  
とみながらシステイーを確どつかまへました。

「システイー、お前は本當に悪い事をした、  
しかし能く、こわさも忘れて、本當の事をいつた、

システイー、お前の父親はかういふ正直な子を持つ  
た事を誠に嬉しいと思ひます。

どうかお前も能く此父親の心を考へて、一生忘れぬ  
様になさい、そして今日の過はいつか屹度償はなけ  
ればなりません。」

ど云ひながら堅くシステイーを抱き占めました、  
やがて婆の方を向いて言葉強く、

「プリミンス、君、此次に再かう云ふ様な虚言を私の  
子に教へる事があつたならば其時こそ直ぐに暇をや  
る、そして其時からもう決してお前にあはぬから  
其積りでおいで。」

### 無心の感化

東 条 子

波風のあらし、此世の旅路をたどり盡して、今はは

や、八十路の坂をも越へたるにやあらん、見るから、  
 あはれなる翁の、眼もかすみ、耳もどほく、膝もふる  
 いて、足元も定まらずなりたるが、我手さへ、思ふが  
 まゝに、動かぬかなしさには、やうく、向ふ朝夕の  
 食卓に、あるは汁をかへしては、衣を汚し、或は飯を  
 落しては、あたり打ち、らすきたなさを、子は眉を  
 ひそめて、あらずもがなど思ふけしき、嫁は口ぎたな  
 くの、しりて、いひこらすに、翁は、何の答も得せず  
 たい、ぼろくど涙をこぼすのみ。はては、茶碗にて  
 は、壊るゝ憂のあればとて、さなきだに、きたまげな  
 る粗造の碗の、椽さへ、所々かけ落ちたるを用ひさせ  
 同じ食卓にては、うるさしとて、勝手の隅に逐ひやり  
 て食事させけり。

ある日、翁、幼なき孫の小さき木片もて餘念もなく  
 遊び戯れ居るを見て、問ふ様、「やよ、子よ、何して遊

べるぞ」大人となりたる時、父上、母上に食を參らせん  
 ために碗を造り侍り」別心なき幼児の答、いかに、夫  
 婦の胸に、ひいきけん、二人は顔を見合せて、暫しは  
 物も言ひ得ざりしが、やがてがばと、翁の前にひれふし  
 て、等しく聲をあげて打泣き、今迄の不幸を詫びぬ。

其日より、麗はしき食器にて食を捧げ、同じ食卓  
 にていたはりかしづき、朝夕、敬ひ仕へけりどぞ。

## 愛らしき幼児

羽田 晴子

世のなかに、ありどあらゆる行爲のうちにて、幼児  
 のなすことほど、罪なく、愛らしきものは、あらじ。

己、性來、幼児を愛し、なほ、幼児の群にありし時に  
 も、歳下の子どもをあつめては、ともに、遊ぶことを、  
 よろこべりしが、今、はた、朝な夕な、幼児とともに、